

■今北洪川 儒学から禅門に入り、維新後、鎌倉禅を盛大に導く基礎を開き、“円覚寺中興の祖”となった。

いまきたこうせん

伊能測量終・1816＝ 摂州福嶋(大阪市福島区)に今北善蔵忠久の三男として生まれた。

水野忠成老中1818＝ 2歳：

異国船打払令1825＝ 9歳：

幼年時代より父の感化を受けて儒学を学び、

シホ 朴追放・1829＝13歳：藤沢東咳の門に入り、

青年時代をその勉学に励み、

高島砲術・・1834＝18歳：この頃には_早くも儒学を教授するが、

1日「孟子」を講じ、浩然の気は説くべきものではなく行ずべきものであると叫んで、_出家の志を抱き、

大塩平八郎乱1837＝21歳：

勸進帳初演・1840＝24歳：_ついに、妻とも別れて禅門に入り、京都相国寺心華院の大拙承演を師として出家、守拙の名を受ける。

順天堂始・・1843＝27歳：

阿部正弘首座1845＝29歳：

大拙は鬼大拙と呼ばれ、その禅風は厳しく激しいものがあつたが、この師に就いて参禅修行すること多年、また師の命により岡山曹源寺儀山に随ってさらに修行を重ね、

万次郎帰国・1852＝36歳：

ペリー来航・1853＝37歳：*大悟して儀山の法系を嗣ぐ。

開国開港・・1854＝38歳：嵯峨の鹿王院に、

安政大地震・1855＝39歳：同地の瑞応院に住したが、

安政の大獄・1859＝43歳：周防国岩国の永興寺に藩主吉川侯に迎えられて住し、この寺を復興するとともに、

桜田門外変・1860＝44歳：

修行道場としての僧堂を建て、修行僧および藩士の参禅を志すものの教育につとめ、

遣欧使節・・1861＝45歳：

生麦事件・・1862＝46歳：

*儒学と禅の一致を図る「禅海一瀾」を撰して藩主有格公に献呈。

本書は藩の文教政策に対して、ひそかに建言しようとしたものであり、その要旨は禅の立場から儒仏の二教一致調和説を主張している。幕末の極端な仏教排撃思想の台頭に理論をもって極力対処しようとした用意と配慮とが知られる。

明治維新・・1868＝52歳：

初の日刊新聞1870＝54歳：

学問のすすめ1872＝56歳：_教部省設置に伴い地方教化の要職につき、

明治6年政変 1873＝57歳：

初の民間工場1875＝59歳：*上京して東京臨濟宗十山総喪大教師となり、教部省の命をうけ鎌倉円覚寺住持となる。

_以後、没するまで道俗の教化に挺身し、法嗣に釈宗演、居士に山岡鉄舟・鳥尾得庵(小弥太)などを育成し、いわゆる鎌倉禅を盛大に導く基礎を開き、“円覚寺中興の祖”といわれるようになって、

琉球処分・・1879＝63歳：

明治14年政変1881＝65歳：

初の対等条約1888＝72歳：

帝国憲法発布1889＝73歳：

大本教・・・1892＝76歳：*円覚寺に没した。